## 福島県内の指定廃棄物の処理の進め方 廃棄物 ○ 焼却・乾燥等の処理によって、指定廃棄物の減容化や性状の安定化を図る事業を進めている。 ○ 福島県内で発生した指定廃棄物については、放射性セシウム濃度が8,000Bq/kgを超え10万Bq/kg以下のものは既存 の管理型処分場、10万Bq/kgを超えるものは中間貯蔵施設に搬入することとしている。 減容化事業の例 特定廃棄物 双葉町減容化処理施設(その1) 指定廃棄物(8,000Bq/kg超) 【処理開始日】 2020年3月処理開始 仮設焼却施設:150t/日×1炉 ② 対策地域内廃棄物 (シャフト炉) (おおがね旧警戒区域・計画的意識区域内) 仮設灰処理施設:75t/日×2炉 双葉町 (表面溶融炉) 双葉町減容化処理施設(その2) 【処理開始日】 2020年3月処理開始 仮設焼却施設にて焼却(可燃物) 【規模】 · 仮設焼却施設: 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉) 仮設灰処理施設:75t/日×2炉 (コークスベット式灰溶融炉) 大熊町仮設焼却施設 (大熊町) 【処理開始日】 大熊 2018年2月処理開始 仮設焼却施設:200 t / 日×1炉 町 中間貯蔵施設 既存の管理型処分場 (ストーカ炉)

福島県内の指定廃棄物の処理については、放射能濃度が8,000Bq/kgを超え10万Bq/kg以下のものは既存の管理型処分場、10万Bq/kgを超えるものは中間貯蔵施設に搬入することとしています。

双葉町仮設灰処理施設で発生したばいじんは、鋼製角形容器に封入し、大熊町、双葉町の廃棄物貯蔵施設で貯蔵しています。

本資料への収録日:2016年1月18日

改訂日:2025年3月31日